

勅諭修身經詳解

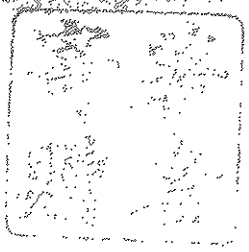
末松謙澄著

完

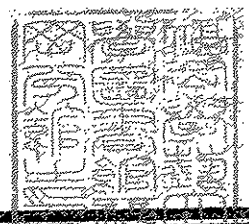
福岡第一師範學校
(學校圖書)

登錄 番號	第	號
精神學		門
倫理學		部
勅諭	款	項
目		次
全	冊ノ内第	冊
分類 番號	第	號
155.7		

T1A3
22
(SU17)



1528



1.15.5
Su 17

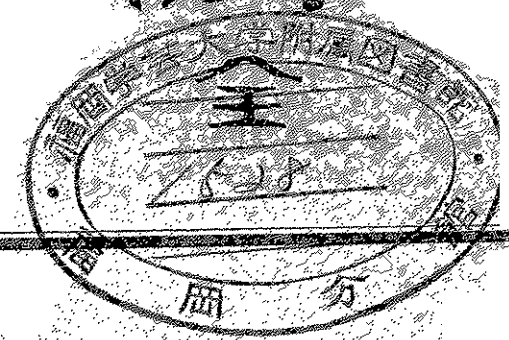
卯 辛 治 明

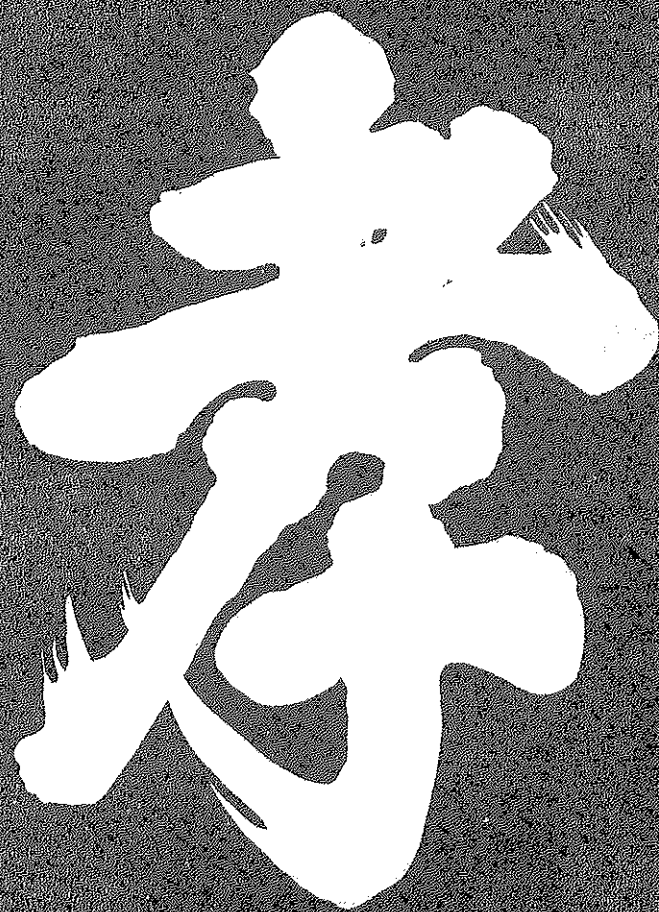


文學博士 末松謙澄著

支那の歴史

滴翠書閣藏版





原形七分ノ一

忠孝二大字略歴

是レ藝州ノ勤王家唐崎八百道カ其郷賀茂郡竹原五十宮八幡社境内千引巖ニ鐫スル所ノ宋ノ忠臣文天祥忠孝二大字ノ摹刻ナリ八百道高山彦九郎ト友トシ善シ嘗テ俱ニ海内ヲ歴遊ス彦九郎ノ久留米ニ死スルヤ八百道悉ク之レト往復ノ文書ヲ焚キ竹原ノ不老山庚申堂ニ上リ屠腹シテ死ス始メ八百道ノ曾祖某山崎闇齋ニ學フ闇齋嘗テ天祥ノ忠孝二大字ヲ某侯ノ所ニ觀テ之ヲ摹寫シ後チ之ヲ某ニ與フ傳テ八百道ニ至ル八百道其逸亡ヲ恐レ之ヲ千引巖ニ鐫ス八百道ノ彦九郎ト豊前ニ遊フヤ小倉藩儒石川彦岳先生爲メニ二大字記ヲ作ル去歲予ノ豊前ニ歸ルヤ始メテ八百道來遊ノ事歴ヲ聞キ今茲竹原ニ至リ更ニ其逸事ヲ詳ニス頃者

二大字ノ摺本ヲ得タルヲ以テ敢テ之ヲ天覽ニ供シ又之ヲ縮寫シテ以テ此書ノ首ニ弁ス亦竊ニ世ノ後進子弟ヲシテ慨然興起スル所アラシムルヲ期スルナリ原鑄上下ニ書ス今之ヲ左右ニ分テ以テ裝釘ニ便ニス左ニ彦岳先生記中ノ一節ヲ抄ス

夫人倫大本莫先乎此二字百行之源萬善所生眞在乎是也世之人自幼至老孰不朝夕口之筆之人君人父以此責臣子宿儒耆學以此訓後生極論切諭諄々不已亦唯是二字然徒言之而不能踐者天下皆是也吾人豈不惕然愧懼乎、

青萍迂人謙澄識

緒言

一予既ニ明治二十三年ノ教育勅語ニ就キ後進子弟ノ最モ先ヅ習學スベキ部分ヲ表章シ之ニ附スルニ私解ヲ以テシ勅諭修身經讀本勅諭修身經階梯ノ二書ヲ著ハシ更ニ進ンデ其餘ニ就キ私解ヲ附シ讀本中ニ解スル所ト合シ重複ヲ除キ接續ヲ正シ以テ一書ト爲シ題シテ勅諭修身經詳解ト曰フ此書即是レナリ敢テ聖意ヲ悉スト謂フニアラズ唯後進子弟ノ一助ニ供スルノミ一此書予敢テ之ニ題スルニ勅諭修身經ノ稱ヲ以テスルハ二十三年ノ教育勅語ハ實ニ我天皇陛下ガ吾人臣民ノ爲メ忠孝友和信ノ要義ヲ示シ恭儉博愛修學義勇ノ諸行ヲ序シ以テ修身ノ大經ヲ垂レ玉フタルモノナルヲ以テナリ其讀本及階梯ニ於ケル亦同シ

一勅語全體ノ語勢文意ヲ仰察シ兼テ吾人臣民ノ本分ヲ考フルニ勅語中「父母ニ孝ニ」ノ上當ニ忠ニ關スル一語

アルベシ其之レ無キハ蓋シ陛下躬君位ニ在ルヲ以テ
 故サラニ謙シテ之ヲ明言シ玉ハザルニ似タリ明言セ
 ズシテ而シテ後チ益々陛下ノ聖徳ヲ見ル吾人ハ固ヨ
 リ當ニ言外ニ於テ深ク其意ヲ服膺スベキナリ是故ニ
 勅諭修身經讀本及階梯俱ニ「皇室ニ忠ニ」ノ一句ヲ以テ
 挿註ト爲シ仍之ニ附スルニ私解ヲ以テス此書仍其例
 ナ存ス

一 此書私解固ヨリ謫劣ヲ免レズト雖モ沈潜反復多少ノ
 苦心ヲ費シテ而シテ後チ得タル所窺ニ以爲ク特色ア
 リト敢テ讀者ノ熟讀玩味ヲ待ツ
 一 此書予窺ニ高等小學以上ノ教科用ニ充テ教官講師ノ
 参考書及ヒ生徒ノ素讀本ト爲サンコトヲ期望ス若シ
 採擇ヲ得バ何ノ幸カ焉ニ加ヘン

從四位勳五等文學博士英國マスタル、イン、ロース、兼バツチエロル、オフ、アトツ

末松謙澄謹識

勅諭修身經詳解

末松謙澄著

朕惟フニ我カ皇祖皇宗

謹デ案ズルニ皇祖トハ我皇室ノ始

祖ヲ謂ヒ皇宗トハ歷代ノ聖天子ヲ

謂フナリ

國ヲ肇ムルコト宏遠ニ徳ヲ樹ツルコ

ト深厚ナリ

皇祖ノ誰タル
 ハ人皇ヲ以テ
 云フト神代ヲ
 以テ云フトニ
 因リ自カラ其
 說ヲ異ニス之
 フ要スルニ皇
 祖皇宗ハ皇室
 ノ祖先ヲ謂フ
 必ラズシモ其
 誰タルヲ窮メ
 ズシテ可ナリ

謹デ案ズルニ肇ハ始ナリ國ヲ肇ム
ルトハ始メテ國ヲ建ルヲ云フ即ハ
チ我日本帝國ヲ創設シタルヲ云フ
ナリ宏遠ハ廣大悠遠ノ意ニシテ其
規模ノ狹隘卑近ナラザルヲ云フ德
ヲ樹ツルトハ樹ハ植ナリ德政ヲ敷
キ德教ヲ垂レ民心ニ浸入シテ固着
スル所アルヲ云フ深厚トハ其根抵

ノ深く且ツ厚ウシテ確乎拔クベカ
ラザルヲ云フナリ蓋シ日本ノ國々
ルヤ久シ太古ノ時ニ方リ天照皇太
神始メテ皇孫瓊々杵尊ヲ降シテ此
土ニ君臨セシメ以テ我帝國ノ基礎
ヲ開ク降テ神武天皇ニ及ビ遂ニ海
内ヲ統一シ以テ大ニ我帝國ヲ建ツ
神武天皇ヨリ今ニ至ルマデ時ヲ經

ルコト既ニ二千五百有餘年而シテ
國ハ則チ長ク東海ニ屹立シテ未ダ
嘗テ外國ノ侮ヲ受ケズ皇室ハ則チ
皇統連綿トシテ長ク一系ノ帝祚ヲ
踐ミ國ト合シテ一體ト爲リ君民相
結托シテ以テ今日ノ盛ヲ致セリ皇
室祖先ノ國ヲ肇ムルコト宏遠ニ德
ヲ樹ツルコト深厚ナルニアラズン

バ焉ンゾ得テ如此ナランヤ故ニ國
ヲ肇ムルコト宏遠ニ德ヲ樹ツルコ
ト深厚ト謂フ

我臣民克ク忠ニ克ク孝ニ

謹デ案ズルニ我臣民トハ廣ク我帝
國人民ヲ指ス此處ハ首トシテ吾人
世々ノ祖先ヲ指シテ云フナリ我が
日本帝國ハ古來我皇室歷代ノ天皇

ノ君臨シ玉フ所ニシテ之カ人民タ
ル者ハ男ト無ク女ト無ク老ト無ク
幼ト無ク孰レカ天皇ニ臣屬セザル
者アランヤ故ニ臣民ト謂フ忠トハ
能ク君ニ事フルナリ孝トハ能ク父
母ニ事フルナリ是レ吾人ノ祖先ガ
能ク忠孝ノ行アリシヲ歎美シ玉フ
ナリ蓋シ本邦古來忠臣孝子實ニ其

人ニ乏シカラズ忠ニ在テハ楠正成
正行父子ヲ始メトシ新田名和菊池
等諸氏ノ一族其他藤原鎌足和氣清
麿菅原道眞ノ類枚舉ニ遑アラズ孝
子ニ至テハ特ニ然リトス古來孝子
傳ノ類堆積山ヲ爲スニ至レルモ亦
以テ之ヲ見ルベキナリ
億兆心ヲ一ニシテ世々其美ヲ濟セル

ハ

謹デ案ズルニ億兆トハ即チ我帝國
人民ヲ指ス蓋シ數ニ因テ謂フノ辭
ナリ心ヲ一ニシトハ能ク忠孝ノ大
義ヲ重ンジ衆心皆茲ニ歸一シ敢テ
枝梧抵觸スルコト無キヲ謂フ其美
ヲ濟ストハ猶美行ヲ全ウスト云フ
如シ忠孝ノ行ハ人事ノ最モ美ナル

モノナリ能ク忠孝ノ實ヲ舉グ故ニ
其美ヲ濟スト謂フナリ蓋シ我帝國
人民ガ祖先以來常ニ忠孝ヲ以テ身
ヲ修メ世ニ處スルノ大法ト爲シ衆
心皆一ニ茲ニ歸シ以テ世々相傳ヘ
テ能ク其美ヲ成セルヲ云フナリ
此我國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦
實ニ此ニ存ス

謹デ案ズルニ國體トハ猶國ノ體貌ト云フガ如シ人各々體アリ而シテ各人必ラズシモ同ジカラズ各々特殊ノ狀貌ヲ備フ國モ亦此ノ如シ各國自カラ特殊ノ氣風體面ヲ備フ之ヲ國體ト謂フ精華トハ猶精髓英華ト云フ如シ事物ノ純粹ニシテ秀美ナル部分ヲ云フ淵源トハ猶根元ト

云フガ如シ蓋シ上文ニ記スル所ハ實ニ我帝國ノ美俗ニシテ我帝國ノ帝國タル所以ノ體貌上ニ於テ純粹秀美ナル一大要部ヲ占メ我國教育ノ本旨モ亦實ニ其根元ヲ此ニ發セラルヲ示スナリ即チ教育ノ本旨モ亦忠孝ノ美行ヲ教フルニ外ナラザルヲ云フ

爾臣民

謹デ案ズルニ爾臣民トハ陛下親シク我帝國人民ヲ呼ンデ勅諭シ玉フナリ

皇室ニ忠ニ

是レ勅語ノ文ニアラズ然レ臣意味ハ則チ自カラ言外ニ含蓄セリ故ニ敢テ之ヲ挿註ト爲シ以テ正

文ノ衍義ニ充ツ

案ズルニ我日本帝國ハ古來我皇室ト與ニ興リ與ニ進ミ以テ數千年ノ久キニ涉ル我帝國人民ハ祖先以來一モ皇室ノ恩澤ニ浴セザル者アルコト無シ加之我帝國ノ帝國タル所以ハ實ニ皇室能ク國ノ休戚ヲ以テ其休戚ト爲シ國ノ

隆替ヲ以テ其隆替ト爲シ常ニ國
ト相離レズ以テ長ク其尊榮ヲ保
チ萬國ニ冠絶スルニ在リ皇室ノ
尊榮ニシテ苟モ一點ノ汚瀆ヲ受
ケンカ我帝國亦其帝國タル所以
ヲ失ハントス故ニ吾人ハ念々皇
室ノ尊榮ヲ忘レズ能ク皇室ヲ奉
戴シ一ハ以テ聊カ祖先以來ノ鴻

恩ニ酬ヒ一ハ以テ益々其光輝ヲ
内外ニ發揚センコトヲ務ムベキ
ナリ

父母ニ孝ニ

謹デア案ズルニ吾人父母アリテ而シ
テ後チ我身アリ身體髮膚皆之ヲ父
母ニ受ク父母ノ我ヲ生ミ我ヲ育ス
ルヤ其劬勞實ニ言フベカラザルモ

ノアリ父母ノ恩ハ海ヨリモ深ク山
ヨリモ高シ詩ニ曰ク欲報之德旻天
罔極ト父母ノ恩ノ報ヒ易カラザル
ヲ謂フナリ其レ然リ致々汲々トシ
テ善ク父母ニ事フルハ誠ニ子タル
者ノ本分トス意フニ敢テ身體髮膚
ヲ毀傷セザルハ孝ノ始メニシテ身
ヲ立テ道ヲ行ヒ名ヲ後世ニ揚ゲ以

テ父母ヲ顯ハスハ孝ノ終リナリ吾
人常ニ拮据勉強シテ以テ其始終ヲ
全ウスルコトヲ務ムベキナリ但人
ノ才智境遇必ズシモ同ジカラズ徒
ニ立身功名ニ熱中シ以テ分外ノ志
望ヲ達セントスルトキハ反テ孝ノ
本旨ニ違フコトアリ是レ思ハザル
ベカラス

兄弟トハ吾ト
父母ヲ同ウシ
テ生ル者ヲ
謂フ姉妹モ含
ムト知ルベシ

兄弟ニ友ニ

謹デ案ズルニ友トハ兄弟相親愛ス
ルヲ謂フ兄弟ハ吾ト同ク父母ノ骨
肉ヲ分チタル者ニシテ其親ノ我ト
相近キコト父母ノ次ニ在リ宜ク相
親愛シテ相助ケ相救フベキナリ詩
ニ曰ク凡今之人莫如兄弟ト人ノ相
親ミ相助クルハ兄弟ニ如クモノ無

キヲ謂フナリ互ニ父母ノ音容ヲ拜
スル想ヲ爲シ樂ンデ相助ケ相救ヒ
以テ彼我ノ幸福ヲ進ムルモノ孰レ
カ兄弟ニ如クモノアランヤ父母既
ニ亡スルニ及ンデハ特ニ然リト爲
ス兄弟ニシテ苟モ友ナラザランカ
遂ニ身ヲ損シ父母ヲ辱シメントス
故ニ兄弟ハ互ニ相友ナラザルベカ

ラザルナリ

夫婦相和シ

謹デ案ズルニ和ハ和合ナリ互ニ相
調和シテ苦樂ヲ共ニシ悖戾反目ス
ルコトナキヲ謂フナリ夫レ夫婦ア
リテ而シテ後チ家アリ夫婦相和セ
ザレバ何ヲ以テ一家ノ幸福ヲ全ウ
スルコトヲ得ン古語ニモ夫婦ハ一

體ナリト云ヘリ夫婦ハ相和セザル
ベカラザルナリ

朋友相信シ

謹デ案ズルニ相信シトハ相交ルニ
信ヲ以テスルナリ信トハ行ヒ其言
ノ如クシ相欺キ相陥ル等ノコト無
キヲ謂フナリ夫レ人固ヨリ孤立ス
ベカラズ必ラズヤ朋友アリテ而シ

テ後チ世ニ立ツベシ蓋シ朋友アリ
テ事ヲ共ニシ業ヲ同クシ互ニ獎勵
裨益スルニアラザレバ人皆勇往ノ
氣ヲ損シ有爲ノ機ヲ失ヒ頑陋ニ陷
テ已マントス而ルニ朋友ハ本、骨肉
ノ親アルニアラズ意氣相合シテ成
ルモノナリ信ナラズンバ何ヲ以テ
カ其交ヲ全ウスルコトヲ得ン故ニ

朋友ハ相信ゼザルベカラザルナリ
恭儉己ヲ持シ

謹デ案ズルニ恭ハ莊敬ナリ儉ハ儉
束ナリ恭儉トハ驕慢倨傲ノ風ナク
且ツ善ク我行爲ヲ儉束シテ放縱粗
暴ニ流レシメザル謂ヒニシテ節用
ノ意亦自ラ其中ニ包含セリ恭儉己
レヲ持ストハ吾人ノ一身ヲ處スル

ヤ當ニ恭儉ヲ以テ旨トスベキヲ謂
フナリ夫レ己レ驕慢倨傲放縱粗暴
ナレバ亦必ラズ人ノ嫌忌侮慢ヲ受
ケ遂ニ其身ヲ亡スニ至ル所謂人必
自侮然後人侮之是レナリ故ニ吾人
ノ己ヲ保持スルハ宜ク恭儉ヲ以テ
旨トスベキナリ

博愛衆ニ及ホシ

謹デ案ズルニ博愛トハ愛ノ偏曲狹
隘ナラザルヲ謂フ衆ニ及ボストハ
此心ヲ推シテ能ク衆人ニ及ボスヲ
謂フナリ夫レ吾人相聚ツテ之ヲ小
ニシテハ家ヲ爲シ郷ヲ爲シ之ヲ大
ニシテハ國ヲ爲シ世界ヲ爲ス互ニ
汎ク相愛シテ其幸福ヲ進ムル心ナ
クンバ禽獸ト何ゾ擇バン蓋シ我自

ラ人ヲ愛スルハ即チ人ヲシテ亦我
ヲ愛セシムルノ道ナリ所謂愛人者
人恒愛之是レナリ故ニ吾人ハ博愛
衆ニ及ボスコトヲ務ムベキナリ但
愛ニハ自ラ差等ナキ能ハズ實際ノ
適用ニ至テハ能ク前後緩急ノ別ヲ
察シテ其宜ヲ制スベシ近親ヲ棄テ
他人ヲ愛シ本國ニ背テ外國ヲ愛ス

ル如キハ愛ノ本旨ニアラザルナリ
是レ思ハザルベカラズ
學ヲ修メ業ヲ習ヒ

謹デ案ズルニ學ヲ修ムルトハ學問
ニ勉勵シテ我見聞ヲ博クスルヲ謂
フ業ヲ習フトハ藝術ヲ反復鍊磨ス
ルヲ謂フ蓋シ忠、孝、友、和、信、恭、儉、博愛
ハ皆吾人ノ善行ニシテ一日モ忽ニ

學ト業トハ大
差違ナシ學ハ
首トシテ文書
ニ就テ謂ヒ業
ハ首トシテ事
物ニ就テ謂フ

スベカラズト雖凡若シ之ニ加フル
 ニ學問藝術ヲ以テセザレバ實用ニ
 適スルコト能ハザルノ恐レアリ且
 ツ事理ニ通曉セザルガ爲メ其所謂
 善行モ或ハ完全ヲ闕クコト無シト
 保スベカラズ夫レ人ノ人タル所以
 ハ徒ニ我故態ヲ守ルベカラズ必ズ
 ヤ學問藝術ヲ修メ事理ニ通シ事業

ニ馴レ以テ世ノ實用ニ供スルコト
 ヲ期セザルベカラズ故ニ學ヲ修メ
 業ヲ習フコトヲ要スルナリ
 以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ

謹デ案ズルニ是レ學ヲ修メ業ヲ習
 フ目的ヲ示スナリ吾人學ヲ修メ業
 ヲ習フノ功ニ因リ才智ノ能力ヲ發
 達シ有德ノ材器ヲ完成スベキヲ謂

能ハ能力ニ同
 シ事ニ堪フル
 ノ伎倆ヲ具フ
 ルヲ謂フ智能
 (トインテレ
 グチニアル、フ
 アクルチー)
 トハ才智上ノ
 能力ト云フ
 意ナリ啓發ハ

誘導シテ發達
セシムルノ意
ナリ器ハ猶材
ト云フガ如シ
用ニ堪フル寶
格ヲ具フルヲ
謂フ德器ヘ
ザキルチユア
ス、ベルソナ
リチー）トハ
猶有徳ノ人物
ト云フガ如シ
成就ハ涵養シ
テ完全ナラシ
ムルノ意ナリ

吉田了以ガ浚
河ノ方法ヲ工

夫シテ能ク舟
行ノ便ヲ開キ
伊能忠敬カ沿
海ノ測量ヲ遂
ゲテ航海ノ進
歩ヲ致セル如
キハ所謂世務
ヲ開クナリ世
務ヲ開クト公
益ヲ廣ムルト
ハ自ラ差違ア
リト雖一專
ニシテ兩者ヲ
兼ヌルモノ尠
ラズト知ルベ
シ

フナリ學問藝術ハ徒ニ無用ノ事ヲ
知リ若クハ惡事ニ堪フル材器ヲ養
フ爲メナラズ必ラズヤ智力ヲ磨キ
德行ヲ養フヲ以テ目的トセザルベ
カラズ故ニ智能ヲ啓發シ德器ヲ成
就スベキナリ
進ンテ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ
謹デ案ズルニ是レ學ヲ修メ業ヲ習

フ者ハ獨リ智能ヲ啓發シ德器ヲ成
就スルニ止マラズ猶ホ進ンデ爲ス
所アルベキヲ示スナリ公益ヲ廣ム
ルトハ公衆ノ利益トナルベキコト
ヲ爲シテ廣ク之ヲ多數人ノ上ニ被
ラシムルヲ謂フ世務ヲ開クトハ世
ノ業務ノ何タルヲ問ハズ之ヲシテ
發達進步スル所アラシムルヲ謂フ

ナリ良書ヲ著ハシ良發明ヲ爲シ又
ハ有用ノ工事ヲ興シテ多ク世人ヲ
益スル類ヲ公益ヲ廣ムト謂ヒ事物
ノ改善方法ヲ案出シテ其事業ノ擴
張ヲ致ス類ヲ世務ヲ開クト謂フナ
リ蓋シ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就ス
ルモ獨リ之ヲ一身ニ藏シ用ニ施ス
所ナクシバ初メヨリ學ヲ修メ業ヲ

習ハザルト何ゾ別タン人ノ此世ニ
生ル、ヤ人々若シ徒ニ一身ノ安樂
ニ姑息シ公益ト世務トノ如何ヲ思
ハズンバ豈文明ノ進歩ヲ見ルコト
ヲ得ンヤ故ニ公益ヲ廣メ世務ヲ開
クコトヲ要スルナリ

常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ

謹デ案ズルニ國憲トハ一國ヲ組織

スル大典章ヲ謂フ國憲ハ政體ヲ確
メ君民上下ノ關係ヲ明ニシ吾人ガ
享有スル權利ノ綱領ヲ示スト同時
ニ又服従スベキ義務ノ要目ヲ示ス
モノニシテ我天皇陛下ガ明治二十
二年二月十一日ヲ以テ欽定シ玉フ
タル憲法ハ即チ國憲ノ最モ著ルシ
キモノナリ夫レ國ニ憲法アルハ猶

ホ體ニ骨アル如シ骨ナクシバ體其
體ヲ爲サズ憲法ナケレバ國其國ヲ
爲シ長ク隆盛ヲ保ツコト能ハザル
ナリ而シテ吾人ハ我國家ノ下ニ生
息シ之レト休戚ヲ共ニスル者ニシ
テ國家ノ盛衰ハ實ニ吾人ノ幸不幸
ト相伴フ故ニ吾人ハ常ニ國憲ヲ尊
重シ之ヲシテ一點ノ障害ヲ受ケシ

メザルコトヲ務メザルベカラザル
ナリ國法トハ政權ノ作用ニ因リ吾
人ノ行爲ヲ支配スル所ノ準繩即チ
諸種ノ法律ヲ謂フナリ吾人が天皇
陛下ニ隸屬シ相集リテ一國ヲ爲ス
上ニ於テ吾人各自ノ交渉ヨリ乃ハ
チ官民ノ關係ニ至ルマデ其權利義
務ノ在ル所ヲ示シ以テ準據スル所

アテシメ吾人ヲシテ生命財産ノ安
全ヲ保タシムルモノハ一モ法律ノ
力ニ依ラザル無シ我レ若シ法律ノ
制裁ヲ顧ミズ他人ニ對シ私慾ヲ逞
クシ私力ヲ縱ニセンカ他人亦我ニ
對シテ其私慾ヲ逞クシ私力ヲ縱ニ
シ互ニ吞噬シテ後チ已マントス果
シテ然レバ社會ノ秩序ヲ紊亂スル

コト之レヨリ大ナルハ無シ社會ノ秩序ニシテ紊亂センカ國其國タル所以ヲ失ハントス譬ヘバ叨リニ其家ノ柱壁ヲ毀損スル者ハ遂ニ自ラ其家ヲ壞崩スルニ至ル如シ故ニ國法ハ常ニ之ヲ遵奉セザルベカラザルナリ

又謹デ案ズルニ國憲ト國法トハ或

ル目的ニ向テハ粗其用ヲ同クス其異ナル所ハ國憲ハ綱領ヲ擧ゲ國法ハ條目ニ涉ルニ在リ之ヲ人身ニ譬フレバ國憲既ニ骨ノ如シトスレバ國法ハ猶ホ筋ノ如シト云ハントス又國憲ノ尊重迥ニ國法ノ上ニ在リテ最モ之ヲ尊重セザルベカラザルコト勿論ナリト雖モ國法亦決シテ

之ヲ蔑如スベカラズ是レ國憲ヲ重
ズルト同時ニ又國法ニ遵フベキ所
以ナリ

一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ

謹デ案ズルニ一旦緩急アルトハ國
ニ事變アルノ時ヲ謂フナリ義勇ト
ハ正義ニ中ル勇氣ナリ若シ勇ニシ
テ正義ニ中ラズレバ暴虎馮河ノ勇

ノミ貴ブニ足ラザルナリ故ニ義勇
ト謂フ公ニ奉ズルトハ國家ニ盡ス
ノ意ニシテ國家公共ノ危難ニ臨ン
デ粉骨壘身ノ勞ヲ厭ハザルヲ謂フ
ナリ是ヲ義勇ノ大ナル者トス蓋シ
吾人ハ常ニ我國家ト利害ヲ共ニス
國家ノ危難ハ即チ吾人ノ危難ナリ
故ニ事變ニ遭ヘバ吾人各々義ニ進

ニ勇ヲ奮ヒ錦旗ノ向フ所ニ從ヒ大
ニ盡ス所アラザルベカラズ此氣象
ヲ平日ニ涵養スルヲ愛國ノ精神ト
謂フ吾人苟モ臣民タル以上ハ一日
モ愛國ノ精神ナカル可ラズ但之ヲ
實際ニ適用スルニハ自ラ順序方法
ト云フモノアリ未ダ徵發ヲ受ケズ
シテ切リニ自ラ戎器ヲ提グテ敵中

ニ闖入セントスル如キ或ハ未ダ宣
戰ノ布告ヲ見ザルニ他國人ヲ認メ
テ讐敵ト爲シ甚キハ之ヲ殺傷セン
トスル如キハ兇ノミ暴ノミ何ゾ其
義勇タルニ在ンヤ故ニ義勇公ニ奉
ズル者ハ亦自ラ事ニ臨ミ時ニ應ジ
順序方法ノ宜キヲ失ハザランコト
ヲ思ハザルベカラザルナリ

以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ
謹デ案ズルニ我皇室ハ開闢以來天
ノ明命ニ據リ萬世一系以テ我帝國
ニ君臨セリ其運素ヨリ天壤ト窮リ
無シ昔ハ天照皇大神ノ皇孫瓊々杵
尊ヲシテ此土ニ降臨セシムルヤ豊
葦原ノ瑞穗國ハ我子孫王タルベキ
ノ地ナリ爾宜ク就テ治ムベシ寶祚

ノ隆當ニ天壤ト與ニ窮リ無カルベ
シト勅宣シ玉ヘリト云フヲ以テモ
之ヲ見ルベシ然リト雖凡皇運亦時
ニ盛衰ナキコトヲ保スベカラズ苟
モ皇運ノ隆盛ヲ維持シ益々其光輝
ヲ耀サント欲セバ人力亦之ヲ盡サ
バルベカラズ獨リ天命ヲ恃ムベカ
ラザルナリ扶翼ハ猶守護警衛ト云

フガ如シ窃ニ聖意ノ在ル所ヲ察ス
ルニ皇運ノ隆盛ハ天子自ラ宵衣旰
食精ヲ勵シ治ヲ圖リ以テ之ヲ維持
スベキハ論ナシト雖モ吾人々民モ
亦宜シク天子ヲ助ケ之ヲ守護警衛
スベシト謂フニ在ル如シ而シテ其
之ヲ守護警衛スル法ハ上ニ謂フ所
ノ國憲ヲ重ンジ國法ニ遵ヒ一旦緩

急アレバ義勇公ニ奉ズト云フニ外
ナラズ是レ陛下ガ以テ云々ト勅諭
シ玉フ所以ナリ夫レ吾人犬馬ノ勞
ニシテ陛下以テ皇運ヲ守護警衛ス
ルニ足ルト爲シ玉ヘリ吾人誰カ恐
悚感激以テ聖恩ノ涓滴ヲ酬フルコ
トヲ務メザルベケンヤ
是ノ如キハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タル

ノミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン

謹デ案ズルニ是ノ如キトハ上文ニ勅諭シ玉フ所ヲ總括シテ言フ祖先ノ遺風ヲ顯彰スルトハ祖先既ニ此美風アリ吾人之ヲ繼承シテ之ヲシテ益々世ニ表發セシムルヲ謂フ吾人若シ上文勅諭シ玉フ所ヲ以テ我

言行ノ標準トナサンカ則チ吾人ハ天皇陛下ニ對シ誠忠善良ノ臣民タルコトヲ得ルハ勿論タリト雖モ唯此ニ止マラズ又善ク祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ルナリ抑モ忠、孝、友、和、信以下ノ諸行ハ吾人祖先ノ常ニ實行ヲ怠ラザル所ニシテ世々相承ケテ以テ我帝國人民ノ美風ヲ爲セリ

吾人ハ宜ク之ヲ繼承シテ此風ヲシテ益々世ニ著明ナラシムベキナリ
斯道ハ實ニ我皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ
子孫臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所
謹デ案ズルニ斯道トハ上文ニ記ス
ル所ノ修身ノ教ヲ謂フ子孫臣民ト
ハ皇祖皇宗ノ子孫タル者及其臣民
タル者ト謂フノ意ニシテ即チ上皇

室ヨリ下、吾人人民ニ至ルマデヲ包
括シテ廣ク指ス蓋シ上文ニ記スル
所ノ修身ノ教ハ實ニ皇室祖先ノ遺
シ玉ヘル訓誨ニシテ其子孫臣民タ
ル者ハ其誰タルヲ問ハズ一ニ皆之
ヲ遵守セザルベカラザルヲ謂フナ
リ

之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ

施シテ悖ラス

謹デ案ズルニ是レ上文ニ記スル所
 ノ修身ノ教ノ宜ク遵守スベキモノ
 タル所以ヲ示ス此教ヤ實ニ容喙ス
 ベキ所ナキ正訓ニシテ時ノ古今ニ
 因テ通ゼザル所アルコト無ク地ノ
 内外ニ因テ施スベカラザル所アル
 無ク萬世ニ涉ツテ變易スベカラザ

拳々トハ恭敬
 奉持ノ貌、服
 ハ猶着ノ如シ
 膺ハ胸ナリ恭
 敬奉持シテ之
 ヲ心胸ノ間ニ
 著クルノ意即
 チ能ク遵守ス
 ルヲ言フナリ

ルモノタルヲ謂フナリ

朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ成其徳
 ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

謹デ案ズルニ拳々服膺トハ心ヲ盡
 シ意ヲ用井以テ念々之ヲ遵奉スル
 コトヲ忘レザルヲ謂フナリ成其徳
 ヲ一ニストハ上下億兆皆同ク一定
 ノ徳境ニ達シ區々錯雜セザルヲ謂

フ是レ天皇陛下ガ躬親ヲ率先シテ
 吾人人民ト俱ニ斯道ヲ遵守シテ德
 行ノ歸一ヲ得ンコトヲ期望シ玉フ
 ナリ陛下既ニ率先シテ此期望ヲ爲
 ス吾人人民豈感憤激昂以テ聖旨ノ
 萬分一二協フコトヲ務メザルベケ
 シヤ

勅諭修身經詳解終

明治二十四年十一月六日印刷
 明治二十四年十一月九日出版

定價金二十二錢

東京・丸善製

1553
 54 17
 末松謙澄
 初諭修經詳解

皆さん

- 読書の前後によく手を洗い
- ゆびをなめずにページをひらき
- 表紙を巻きかえさず
- 書き込みや折り目もつけず
- いつも気持がよいように

読みましょう

第五號地 澄
 造所内 郎
 十七番地 堂

圖書 和圖書 遡



a 1380837977 a

福岡教育大学蔵書